

○ 並行在来線に対する県の対応方針 (平成9年5月)

(盛岡・八戸間)

並行在来線に対する県の対応方針

1. 東北本線「盛岡・青森間」は、1日約3,400人の普通列車の利用者があり、地域住民の重要な足として、また、新幹線や他の線区と連絡する一体的な地域交通ネットワークとして活用することが重要であると考えています。  
このため、「盛岡・青森間」の鉄道については、将来とも維持存続します。
2. 事業主体の設立・運営等については、県が責任をもって主体的に取り組めます。
  - 1) 事業主体の設立・運営等の取り組みについては、並行在来線対策協議会等の場を通じて十分協議しながら進めます。
  - 2) 初期投資及び開通後の運営経費については、県が中心となって対応し、沿線市町村に対し、財政運営に支障を与えるような負担を求めないようにします。
3. 利用者の利便性を向上するように努めます。
  - 1) 新幹線ダイヤに合わせた快速列車等を運行し、最寄りの新幹線駅へのアクセスを確保します。
  - 2) 地域住民の通勤・通学の足を確保するため、地域のニーズに合わせたきめ細かなダイヤ編成や増発を行います。